

(銀のエンジェル賞 幼児・小学生低学年の部)

やさいレンジャー

小二・ありむら あやさ

トマトせんようビニールハウスにトマトさんが住んでいました。トマトさんはみどり色のころからずっと、やさいレンジャーになりました。

水よう日の夜にはかならず、にんじんさん、ミニトマトの三つ子、きゅうりさん、パプリカ三きようだいもこっそりトマトさんのところにやって来ます。みんなは集まって、わるものが来た時のたたかい方をそうだんしていました。そうだんのはたはたたかい方のれんしゅうです。

「あの石をねらって！」

ミニトマトの三つ子は、体に小さなあなをあけてそこからしるをとばします。みんないつもこんなことをしていますが、たたかったことがあるのはネズミくらいでした。

いつものようにみんなが集まっていた水よう日の夜、ゴゴゴゴと音がして、まぶしい光がビニールハウスにさしこみました。見ると、ビニールハウスのとなりのはたけの上に、きよ大なうちゅうせんがとまっていました。うちゅうせんは、ところどころ四角くて黒色でした。四角いじどうドアの中から四人のうちゅう人がおりてきました。

「うわあ、すごいよ、おりてくるよ」

ミニトマトの三つ子が言いました。四人のうちゅう人たちは、

「コノワクセイヲ モラオウ」

と言つて、はたけをほじくりはじめました。はたけにいるやさいたちは、

「うちゅう人だ！ はたけがめちやくちやだ！」
とみんな大きわぎ。

「これは、れんしゅうのせいかを見せるしかない」

そして、トマトさんとミニトマトの三つ子はしるを出すじゅんびをしました。きゅうりさんはしばづけになり、にんじんさんはわ切りになり、パプリカ三きようだいはかわがまっ黒になるまでやいたパプリカになりました。

「それいけ！」

パプリカ三きようだいは、一人目のうちゅう人にあつい体をくつつけました。ジュワー。うちゅう人はやけどしました。

「ア、 アツイ」

やけどしたところがむらさき色になりました。

つぎはにんじんさんです。にんじんさんのわ切りがどさどさどさと二人目のうちゅう人にのりました。

「オモイ……」

とうちゅう人はペしゃんこになりました。

つぎはきゅうりさん。しばづけになってすっぱいしるをびちやびちや三人目のうちゅう人にかけます。

「スッパイ！」

うちゅう人はがばがば水をのみました。

つぎはミニトマトの三つ子とトマトさんです。ピチュ、ジャー。

「ナガサレルー！」

すごいりようのしるをだしたので、四人目のうちゅう人がながさ

れました。ニヒヒヒヒ、とトマトさんが言いました。

「コイツラ ツヨイ ワレワレノ マケ」

とうちゆう人がながされながら言いました。

「アナタタチハ ナニモノデスカ」

「みんなそろって、やさいレンジャー！」

みんなは、はり切って答えました。

それからうちゆう人たちとやさいレンジャーたちは色々な話をし
て、なかよくなりました。やさいレンジャーたちは、カボチャくら
いの大きさのうちゆうせんをもらい、そのお返しにプランターとや
さいのなえをあげました。みんな、このなえがいつかやさいレンジ
ャーになるのを楽しみにしています。

カボチャの大きさのうちゆうせんにのってあそびに行くと、うち
ゆう人たちがやさいレンジャーのまねをして出むかえてくれること
もあります。

「ミンナソロッテ ヤサイレンジャー！」
